

ご卒業おめでとうございます

今年度も新型コロナウイルスの蔓延により、行事や体育、音楽、校外学習などが中止・延期となる我慢の1年でした。そんな状況の中で、各学部の最高学年として、積極的に行動したり、後輩を引っ張ったりしてくれた卒業生に大きな拍手を送りたいと思います。

卒業後に進んだ次のステージでも、力強く、たくましく、一步一步確実に歩んでください。進路先でのさらなる成長と活躍を心から応援しています。卒業生の進路は次のとおりです。

～小学部卒業生～

進 学	本校中学部・・・・・・・・・・1名
-----	-------------------

～中学部卒業生～

進 学	本校高等部・・・・・・・・・・6名
-----	-------------------

～高等部卒業生～

就労継続支援 B型事業所	ワークショップ大鰐（大鰐町）・・・・・・・・1名
	ワークショップ大鰐・グループホームすみれ（大鰐町）・・・・・・・・1名
	ワークキャンパス大鰐（大鰐町）・・・・・・・・1名
	せせらぎの園（田舎館村）・・・・・・・・1名
	カリフラワー（平川市）・・・・・・・・1名
	ミノリサイクル・もみじ学園（黒石市）・・1名
就労移行支援 事業所	NEXT～自立訓練～（弘前市）・・・・・・・・1名
その他	地域活動支援センター（黒石市）・・・・・・・・1名
進 学	障害者職業訓練校（弘前市）・・・・・・・・1名

ズバリ!! その質問に答えます!

小・中学部の保護者の方から「うちの子は一般就労できるのでしょうか?」とか「B型・生活介護のどちらに行けるのでしょうか?」等といった質問や相談を受けています。今現在の子どもの様子から進路先をイメージすることも、これから取り組むべきことも分かります。参考にいただければと思います。

働くための勉強をもう少し続けたい! → → → → 就労移行・訓練校

一昔前と比べると障害のある子どもたちを取り巻く環境は「安心・安全」なものとなり、ほとんどの子どもたちが放課後等デイサービスを利用し、卒業後は福祉施設までの送迎が当たり前の時代となりました。

ドア to ドアの生活は親にとっては安心ですが、子ども一人で買い物や外出する（大人無しでの社会経験）機会は激減しているともいえます。

一般就労には、一人で何でもできるようになることが求められるというのは昔から変わっていません。もちろん合理的配慮はありますが、何でも自分でやるのが当たり前の厳しい社会に出ることになります。

高等部卒業後も、もう少し働くための勉強を続けたいという生徒には、就労移行支援事業所や青森県障害者職業訓練校（弘前市）に進むという選択肢があります。ただし、「一人で通勤できること」「基本的なコミュニケーションができること」「働きたいという気持ち強いこと」などのハードルはあります。



交通機関を利用でき、一人で外出、留守番できる！ → → → 企業・A型

一般企業やA型事業所には、ハローワークを通して就職することになります。企業で正社員になった生徒は月12～3万円、A型では5～7万円の給料をもらっています（パート採用は勤務時間に応じた給料）。

企業やA型に進む生徒は100%電車バスで通学し、**放課後デイサービス**は利用せずに一人で自宅に帰って過ごしています。スマホやタブレットも使いこなし検索したり余暇を楽しんだりしています。

普段からコンビニやスーパーで買い物をしたり、電話やネットでCD等を予約したり、休日に友だちと約束して、さくら野やイトーヨーカ堂、カラオケに行ったりもしています（今はコロナなので無理ですが）。

現場実習時には、電車が遅れた、バスを乗り間違えたといったトラブルがあると、親や学校に自分で電話をしたり、運転手等に尋ねたりして自分で解決することができます。

高等部卒業時点で、企業やA型への就職を目指すのであれば、自力通学や一人での買い物ができ、当たり前留守番ができ、そして、中学部くらいになると一人で弘前に買い物に行ったり、友だちと遊びに行ったり…が、当たり前にできるようになっているというのが目安となります。



集団指示で活動可能。ほぼ身辺自立。気持ちが安定。 → → → B型

B型事業所は福祉就労になりますので給料ではなく工賃をもらいます。月1万円前後の施設が大半ですが、働きによってはほとんどもらえないこともあります。定員に空きがあればいつでも利用できそうですが、最近は様子が変わってきています・・・。

現場実習後、卒業後の利用を断られるケースが増えています！！

授産施設からB型事業所に変わり、知的障害だけではなく精神障害の方を受け入れている施設が増えています。明るく元気で話し好き（賑やか？）な生徒が施設に来ると精神障害の利用者が不安定になるといった理由で断られるようになってきました。口頭指示で動けない生徒は断られることもあります。

施設によって仕事内容は異なりますので、本人に合った作業を提供している施設を選ぶのは当然ですが、小・中学部でも、どれくらい集団への指示で活動できたり、時間いっぱい集中して作業できたりしているかがポイントになります。いつも個別の対応が必要だったり、自分勝手な行動を繰り返したり、他害があったり、無断外出（教室から飛び出したり）などがあると選択肢はガクンと減ります・・・。



一人でできること、一人で過ごせる時間が多いと選択肢増。 → 生活介護

食事や身辺、安全面に不安がある場合、生活介護事業所の利用が想定されます。入浴サービスも行ってくれる施設もあります。ただ、施設によってサービス内容やサービス提供時間に差があり、有職保護者にとっては悩みどころです。放課後デイサービスがないので、送迎時、自宅にいられるかどうか、土曜日、祝日は休みかどうか等、本人の適性以外に保護者が対応できるかどうか検討材料になります。

生活介護についての最大の悩みは、空きのある施設がほとんどないということです！小・中学部の生徒が高等部を卒業する頃に、新しい施設が近隣にできることを祈るのみです。こういった状況ですので早い者勝ちの状態でもあります。利用者2～3名に対して職員1名といった配置ですので、常時個別の対応は無理ですし、他害のある場合や無断外出などがある場合には断られることもありました。

作業に取り組める場合には、仕事をする時間も設定されます。もちろん作業に応じた工賃が支給されますので、中学部・高等部での作業学習の積み重ねは大切になってきます。



小・中学部のときの社会経験の“量”と“蓄積”が進路に直結してます！

一人で寝る、買い物に行く、祖父母宅に泊まる等々、全て貴重な社会経験。独り立ちに親の心配はつきもの。少しずつ大人の階段を歩ませましょう！